

建物火災を実際に見たことがありますか? 江戸時代の建物の多くは木で造られていましたので、江戸では、いったん火災が起ると町全体が焼け野原になるような大火を何度も経験しました。そのため、火災から財産を守るために燃えやすい木ではなく、土を厚く塗った土蔵などが造られました。明治になると、建物にはレンガ、コンクリート、鋼などの燃えない材料が使われるようになりました。建物や都市を燃えない材料で造れば、火災に強くなると考えたからです。

写真に示す超高層建築の柱や梁は、鋼で造られています。もちろん、このような鋼の柱や梁は燃えません(余談ですが、細く線状にした鋼は良く

耐火建築

—研究室の扉を開く—

「しげを追つて

326



確かに燃えない材料で造られた建物そのものは燃えませんが、我々の身の回りには、着るものや家具などの燃えやすいものがあふれています。コンクリートや鋼で造られた

火災による熱にさらされると、鋼の柱や梁がアメリカのように曲がるくらい柔らかくなります。

同じように火災の熱が鋼の柱や梁に伝わることを防ぐことができれば良いのです。料理用の厚い手袋の役割

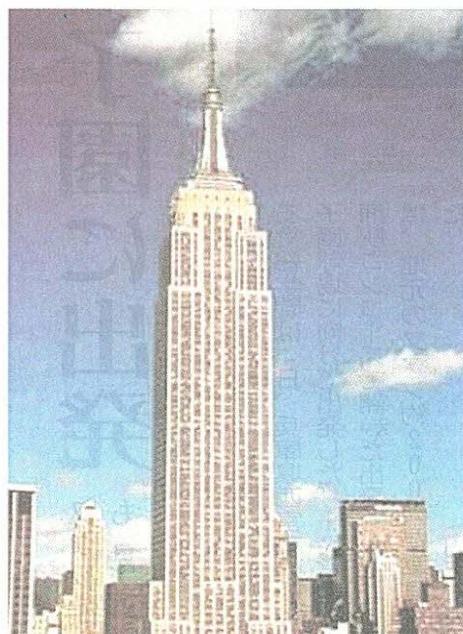
合を思い出してください。熱い鍋を持ち運ぶ時にい材料です。耐火被覆は、料理用の厚い手袋(ミトン)を使いますね。これは熱さから手を守るためです。厚い布の生地は鍋の熱が手に伝わることを防いでくれるので

す。

このように、火災に強く安全な建物をつくるためのさまざまな研究を建築研究所では進めていま

柱などを耐火被覆で守る

手袋の役割
を果たすものが「耐火グループ 茂木武」



超高層建物の柱や梁は耐火被覆で守られた鋼でつくられています